



トラフグ (日本海・東シナ海・瀬戸内海系群)

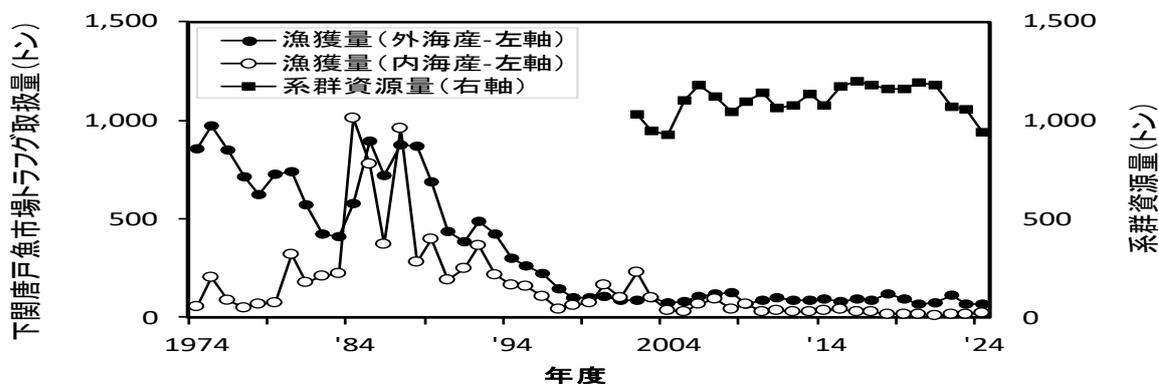


図 下関唐戸魚市場(株)取扱量 (同社月別魚種別取扱高表から積算した年度計) 及び日本海・東シナ海・瀬戸内海系群資源量 ((国) 水産研究・教育機構 資源評価報告書) の推移

【漁業】トラフグは回遊魚で、12~2月頃には日本海の九州・山口北西海域で主にふぐ延縄で、春期には各府県 (日本海、瀬戸内海) の産卵場周辺で定置網、小型底びき網、ひっかけ釣等で漁獲される。

【漁獲量】本種は農林水産統計値のデータが存在しないため、漁獲量動向として下関唐戸魚市場(株)の取扱量を用いている。外海産 (東シナ海・黄海・日本海産)、内海産 (瀬戸内海、豊後水道、伊勢・三河湾産) とともに 1980 年代には最高 1,000 トン前後だったが、外海産は 1998 年以降 100 トン前後で、内海産は 2004 年以降 100 トン未満の低水準で推移している。2024 年度は合計 86 トン (外海産 67 トン、内海産 19 トン) であった。水研機構が資源評価で集計した系群内 22 府県の漁獲量は 2024 年度 131 トン (暫定値) で、このうち山口県の漁獲量は 44 トン (日本海 39 トン、瀬戸内海 5 トン) である。本系群の漁獲物の年齢組成は、近年になるに従い若齢魚の割合が低下しており、2024 年漁期では 4 歳魚以上の漁獲尾数が最も多かった。

【資源状態】系群資源量は 2002 年漁期以降、2006 年漁期 1,181 トンを最高に 1,000 トン前後で穏やかに変動していたが、2024 年漁期は過去最低の 941 トンとなった。2024 年漁期親魚量は 702 トンで、最大持続生産量 (MSY) を実現する漁獲圧の代替値として F30%SPR が提案された。この漁獲圧で将来予測を行ったときに推定される平均親魚量 (SBmsy=577 トン) を目標管理基準値、過去最低親魚量 329 トンを限界管理基準値、禁漁水準として 0 トンが提案されている。

トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の資源評価関連指標値等 (単位: トン)

2024 年漁期 漁獲量	最大持続生 産量 (MSY)	2024 年 親魚量	目標管理 基準値(案)	限界管理 基準値(案)	禁漁水準 (案)
131	191	702	577	329	0